

脊髄空洞症

脳や脊髄は液体の中に浮かんで、外部からの衝撃から守られています。この液体を脳脊髄液といいます。脊髄空洞症とは、脊髄という神経組織の中に脳脊髄液が貯まり、脊髄の中に「ちくわ」のように空洞ができる病気です（図）。この水溜まりが大きくなると脊髄を中から圧迫するので、手足のしびれ感や運動障害、排尿障害などの脊髄障害を生じる原因になります。現在ではMRIにより容易に診断ができるようになりました。厚生労働省の指定難病となっていて、現在推定患者数は2500人前後です。脊髄空洞症の原因は様々ですが、小脳が先天的に下っていて脳脊髄液の流れが妨げられたり（キアリ奇形）、脊髄損傷や脊髄炎に脳脊髄液の還流障害があります。稀に脊髄腫瘍による脊髄空洞症を認めることもあります。症状は片側の腕の感覚障害もしくは脱力で発病することが多く、重苦しい、痛み、不快なしびれ感ではじまることがあります。また特徴的な感覚障害として温痛覚障害をきたすことがあります。

治療は症状を緩和する薬物療法と空洞を減少させる手術治療があります。手術法には、大後頭孔減圧術など脊髄液の流れを改善させる方法と空洞内に細いチューブを入れ貯まった水を空洞外へ流すシャント術があります。適切な時期に手術を行えば、空洞症を縮小させ進展を予防する事が可能です。顕微鏡を必要とする繊細な手術ですから、脊椎脊髄病指導医に御相談下さい。



図 キアリ奇形を伴う脊髄空洞症（矢印）